

## 令和7年度コミュニティ・スクール情報交換会会議録

日 時 令和8年3月5日(木) 午後2時～3時15分

場 所 防災センター303 会議室

出席者	狛江市立緑野小学校	校長	亀田 親子
	一中ゾーンコミュニティ・スクール	会長	吉田 和夫
	狛江市立狛江第三小学校	校長	所 水奈
	二中ゾーンコミュニティ・スクール	会長	鈴木 智善
	狛江市立狛江第三中学校	校長	岩瀬 敏郎
	三中ゾーンコミュニティ・スクール	会長	白井 誠
	狛江市立狛江第四中学校	校長	工藤 聡
	四中ゾーンコミュニティ・スクール	会長	千葉 桂樹

事務局	狛江市教育委員会教育部教育政策監	鈴庄 美苗
	同部学校教育課長補佐兼教育政策係長	森 旦憲
	同部学校教育課教育政策係主査	掛川 智史
	同部学校教育課教育政策係地域学校連携支援専門員	亀澤 信一

### 付議案件

- (1) 今年度の各ゾーンの取組
- (2) 情報共有
- (3) 意見交換
- (4) 次年度の予定
- (5) その他

### 議 事

#### (1) 今年度の各ゾーンの取り組み

「取り組んだこと・話し合ったこと」「会議の参加者や形態(児童及び生徒の意見の尊重等)」「昨年度に比べて深まったと感じること」「次年度に向けて改善の余地があること」等の視点で、各ゾーンより報告

#### 【一中ゾーン】

##### [今年度の取組と成果]

- 今年度は、ゾーンのカレンダーを作成して委員に配布した。
- CS週間に教員同士がゾーン内の学校の授業を参観し合う取組を行った。
- 教員同士のつながりを密にすることで9年間のつながりのある教育を行うことを目指し、学校運営協議会4回のうちの2回は授業を参観した後に協議会の形式をとった。
- 第2回学校運営協議会は、一中の授業参観後に6つの分科会を実施することにより、小学校と中学校のよい情報交換ができた。
- 第3回学校運営協議会も一小の授業参観後に6分科会に分かれての話し合いを行い、委員の皆さんも参加した。分科会の内容はだいたい小中連携を意識したものになって、教員の意識が変わってきた。
- 3校の特別支援学級の交流を年間3回行い、教育の中身が充実してきている。一小、緑野小から一中に行くという流れの中で、成果が上がっている。
- 第4回学校運営協議会では学校評価の検討をしたが、全体的によい評価をもらった。

#### [今後の課題]

- 学校評価の評価項目を3校で合わせた方がよい。
- 中学校になると保護者の意識がどうしても下がってしまう傾向があり、分かっているから安心ということで子どもからだんだん目が離れていく。この課題についてもコミュニティ・スクールで話し合いたい。

#### 【二中ゾーン】

##### [今年度の取組と成果]

- 3校が近距離にあるコンパクトゾーンのため、連携しやすいという強みがある。
- 3校のカリキュラム連携における3つのキーワードのうちの一つ目のキーワードである「あいさつ」について、コミュニティ・スクールの中の目指す子どもの姿を「あいさつができる子」とした。
- これまで中学生が小学校に行っていたが、今年度はそれに加えて小学生が中学校に行って一緒にあいさつ運動をするなど、相互に行き来する取組を行った。
- 二つ目のキーワードは「子どもの声」。昨年度の最後の学校運営協議会で、3校の代表の子どもたちに参加してもらい、今自分たちが頑張っていることやこれから地域の方と一緒にやっていきたいことを話してもらった。
- 昨年度から取り取り組んでいる子どもの声の反映について、どう今年度につなげるのか難しい面もあったが、今年度は第1回学校運営協議会から子どもの声を入れて、熟議していくような流れにしてみた。
- 子どもの声を生かすという点では、子どもたちから多摩川清掃や3校合同のお祭り、「音楽の街狛江」の広報、地域の合同運動会等、みんなでやりたいことが要望として出てきたことが成果である。
- 月1回実施している水辺の楽校で子どもたちも一緒に多摩川清掃ができないか、二中ゾーンで行っているスポレクの内容を見直して3校合同運動会として子どもたちのイメージに近くできないか、という話もあった。「音楽の街狛江」の広報については、町内の掲示板を使わせていただき、子どもたちのポスターを貼ることで実現した。
- 三つ目のキーワードは「探究」。新学習指導要領の方向性にもあるが、3校とも探究的な学びを校内研究のテーマにしており、3校相互の研究授業に教員が参加する形にした。お互いの研究授業についての情報交換をして、参観した他校の教員も協議会に参加するようにした。
- これまで学校運営協議会で委員がじっくり話し合う時間が持てないという課題があったが、魅力ある学校づくり推進協議会の内容について臨時学校運営協議会で話し合いをしたところ、「有意義だった」「次に何をすればよいか見えてくる」という声をいただいた。

#### [今後の課題]

- 子どもの声を実際に聞くことは難しい面があるが、今後も工夫しながら継続したい。
- 具体的な内容を作れるような熟議の持ち方をあらためて考えたい。
- 教員の声も活かしていくことを地域の皆さんと話していきたい。

#### 【三中ゾーン】

##### [今年度の取組と成果]

- 年度当初に小学校と中学校の学校経営計画を確認するとともに、小学校、中学校、地域それぞれが目指す子ども像について、どう道筋を立てていくかという確認をした。
- ありのままの自分であることや自分らしさを発揮すること、地域の郷土愛については共通して触れられている内容だったので、小学校と中学校、ゾーンのそれぞれの取組が目指していることにうまく結びついているかという意識合わせを最初に行った。
- 三中ゾーンの特色として合同学校要覧を作成していて、和泉小と三中の学校方針や地域の行事、和泉小と三中の行事を盛り込んでいる。
- 昨年度までは夕方遅くの会議で委員の皆さんに生徒たちの様子を見てもらっていなかったため、今年度は早めに集まって授業を見てもらう機会を作った。さらに行事等も見学していただくことで、学校の様子をお伝えしている。

- 今年度初めて、和泉小の児童運営委員会と三中の生徒会に同一の項目でアンケートを実施して、子どもたちの声を取り入れた。その中で、安心できる楽しい学校にしていきたい、様々な体験ができる学校がよいという意見がたくさん出た。

#### [今後の課題]

- 合同学校要覧が完成するのが6月や7月になってしまうので、配り始める時には年度初めの行事が終わっている。地域の行事や学校の行事が決まるのは3月末くらいになってしまうので、要覧の作り方や時期は今後の課題である。
- 子どもたちが一緒に集まって意見交換ができるとよい。
- 教育委員会への教育課程の届け出がまだ終わっていなかったため、第3回学校運営協議会で来年度の教育課程の承認ができなかった。学校運営協議会内での教育課程の承認のスケジュールについては課題がある。

### 【四中ゾーン】

#### [今年度の取組と成果]

- 子どもの声を取り入れることを今年度の重点にして、四中生徒会の生徒たちが学校運営協議会の中でプレゼンテーションをした。「私たちの学校をもっとよくするために」というテーマで学校運営協議会の委員の皆様アンケートをとって、その声に四中生徒会としてどう応えられるかという内容であった。
- 子どもたちの発表は、四中ゾーンで育て四中が大好きで、四中ゾーンがよい地域であってほしいという気持ちが溢れていて、とても良い内容であった。
- 五小の夏祭りの実行委員会に企画の段階から四中生が参加して、ボランティアとして様々な所にお手伝いに行き、さらに生徒会のブースも出したことが大きな成果であった。
- 五小の先生方と学校運営協議会の委員の皆さんが、管理職のいない中でぎっくばらん意見交換をして、お互いの相互理解を図った。
- もう一つの成果は部活動の地域展開で、まずサッカーに関して、ゾーンの力を借りていよいよ4月からは活動が始まり、体験会が予定されている。また、2年目の男子バレーボール部も地道に活動を続けている。

#### [今後の課題]

- 今年度最後の学校運営協議会で次年度の教育課程や予算の承認をいただく予定だが、未確定の部分も多いので、次年度当初の学校運営協議会での承認になる。
- 子どもの声を取り入れることについては実際にはなかなか難しい面もあるが、四中生が五小夏祭りの実行委員会に参加したことや学校運営協議会でプレゼンテーションをしたことで得られたことをどう学校教育に反映させていくのかが大きな課題になる

#### ～質疑応答～

##### 三中ゾーン

- ゾーンの学校運営協議会で話し合う内容と地域の様々な取組やイベントが、どこまでがコミュニティ・スクールの範囲なのか。
- やるんだったらみんなと一緒にやればよいという思いがある一方で、それぞれの団体で企画する方たちの思いがある。範囲、連携もそうだが、お互いの役割分担をどう考えるとういふ。

##### 事務局

- コミュニティ・スクールでは、話し合わなければならないことと話し合いたいことがある。
- 話し合わなければならないことは、年度初めには校長の基本的な方針に加えて、次年度からは教員の働き方改革に関することや魅力ある学校づくり等を、そして年度末には学校関係者評価の結果の公表や教育課程の編成等がある。
- 一方で、話題になる話や議論が盛り上がる話、実際に子どもたちが参加するものや大人が一生懸命にやっていること、地域学校協働活動や育成委員会、おやじの会でやったこと等いろいろある。

- メンバーの重複があるのであれば、前後の時間でセットでやる等効率化してもらったり、議論の質を上げるよう、議題を見直すことも一つの方法だと思う。

#### 四中ゾーン

- 学校の周りには様々な会があるが、学校運営協議会は学校の活動について話し合うべきだと思う。
- 他の様々な組織でも同じ。それぞれベースになっている部分が違うので、やっている人は同じでもやっている内容は違う。きちんと分けるべきだと思うし、それを他の委員会に持ち込んではいけないという意見である。

#### 二中ゾーン

- コミュニティ・スクールはそもそも学校の運営に関してのもので、そこに地域学校協働本部がどう関わりをもてるのかということ。コミュニティ・スクールは頭脳で、学校や子どもたちがやりたいことを地域の力を借りてどうやって実現するかを協議していく。
- これだったら地域ができる、学校の経営に対してはこういう支援ができる、といったところで振り分けはやっていかないといけない。
- 子どもの声が上がっていても学校は合同の運動会はできないので、その思いや願いを生かすために、地域で担えるのであれば学校としては助かる。
- 学校がやることと地域がやることは異なる部分があることは認識していかないといけない。

#### 一中ゾーン

- 一中ゾーンは、次年度は子どもたちの声を取り入れたいと思っているが、中学校と小学校の子どもたちに学校運営協議会に出てもらう時間帯の設定が難しい。
- 学校の距離や小学生を中学校に連れていく問題があるので、給食終了後の昼の時間帯に子どもたちを集めてオンラインでつないで、学校運営協議会の委員の皆さんが一番近くの学校に集まってもらおうことを考えている。
- どういうテーマについて話すのか、やりたいことなのか、よりよくするためなのか、あるいは話した内容が実現可能なのかというのも悩ましい部分である。

#### 四中ゾーン

- 四中ゾーンでは子どもたちの声を聞くために、放課後に四中生徒会の子どもたちに参加してもらった。とてもよいプレゼンで、学校をどうしていきたいかという素直な意見を聞いた委員からは、次は地域に何をやってもらいたいのか、学校に何をしてもらいたいのかの意見をもっと出してもらってもよいのでは、という声が上がった。
- 小学生が学校運営協議会に参加するのはプレッシャーが大きいと思うので、先生たちから話を聞く機会を作った。管理職の方は退席し、ざっくばらんな話を聞いて学校や職員室の日常的な雰囲気を知ることができ、学校評価に出てくる文書や数値が違って見えてきて、学校への理解が深まった。
- 小学校の子どもたちの声や意見を実際に聞くことが今後の課題で、時間帯は放課後しかないと考えている。

#### 二中ゾーン

- 今年度の第2回は、会場校の三小の子どもたちは実際に参加して、六小と二中の子どもたちはオンラインで繋いで話をしてもらった。中学校と小学校では時程が大きく違うので、時間を合わせるのが難しい。

## (2) 情報共有

### ○ 「コミュニティ・スクール：熟議の方略」研修会実施報告

事務局より、12月に実施した「コミュニティ・スクール：熟議の方略」研修会の内容とアンケート結果について報告

### ○ 教育委員会視察（三鷹市）報告

教育政策監より、11月に視察した三鷹市のコミュニティ・スクールの取組について情報提供

### ○ 中学校「拡大版生徒会」報告

教育政策監より、2月に市内4中学校の生徒会役員の生徒たちが集まって実施した拡大版生徒会について報告

～質疑応答～ なし

### (3) 意見交換

「コミュニティ・スクールとして今後に向けて取り組みたいこと」について、出席者が2つのグループに分かれて意見交換を行った。

～意見交換後の意見～

一中ゾーン

- 地域によって様々な特質があり違うが、コミュニティ・スクールである以上、本来は学校のことをきちんと考えるのが望ましい方向性である。
- 活動を媒介するのは地域学校協働活動であるのは確かだが、学校の運営についてきちんとコミットする必要がある、そういうことを求められる時代になってきている。
- 学校評価は、本来、子どもたちや保護者、教員がやった評価を自分たちできちんと分析して確認する必要がある。子どもたちの声を聞くのも、生徒会や児童会が中心となってやるとよい。そういうフィードバックを子どもたちにやってもらうのがよいと思う。
- PTAのあり方について東京都のフォーラムでも問題になったのは、PTAはどうなっているのか、PTAとコミュニティ・スクールはどう関わるのか、ということであった。
- PTAのあり方もすごく難しい。PTAが成り立たないという学校も出できて、ある地域の学校ではPTAをやめて地域学校支援本部を作ったが、それも上手くいかなかった。PTAは新しい形を考える必要がある、コミュニティ・スクールとしてどう考えるかが今後の課題だと思う。
- 子どもの声を聞くことについては、子どもたちが学校運営の中の自分たちがやっていることになるべく自分たちの声を反映することができるような仕組みを作っていけるとよいと思う。

二中ゾーン

- 二中ゾーンは皆さんが協力的でコンパクトにまとまっていて、とても大変助かっている。
- 今後、子どもたちの意見に対してどれだけ企画できるかが課題である。みんなが納得した形で実現できるように企画するのがコミュニティ・スクールで、その実働部隊として育成委員会や各学校のPTA、おやじの会があると思う。どこまで企画して助けていけるか、今後取り組んでいきたい。

三中ゾーン

- 三中ゾーンのコミュニティ・スクールの委員は地域の団体とだいたい同じメンバーだが、どの委員会をやっている時も、学校がやりたいことに対して精一杯のサポートをしていく、何か要望があればお手伝いするというスタイルでやってきている。
- コミュニティ・スクールとなって、どういう形で経営の支援をしていくべきかで困惑している面がある。
- 学校がやりたいことを一緒に進めていく意識を持ちながら、学校経営や地域としてどういう子ども像を求めているかということを考えながら取り組んでいきたい。

### (4) 次年度の予定

#### ○ 会議開催方法の変更

事務局より、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を目指して、次年度より「CS情報交換会」と「学校と地域学校協働本部の定例会議」を統合した「CS・地域学校協働本部連絡会議」を年2回開催することを報告

#### ○ polyfitの普及・活用

事務局より、CS・地学協およびpolyfit啓発用のチラシを、市内の諸団体と市内中学校の卒業生の保護者に配布、また令和8年度当初の全ての小・中学校の保護者会で口頭で説明しながら配布する予定であることを報告

#### ○ 各ゾーンの令和8年度年間予定の提出および委員の推薦について

事務局より、令和8年度の各ゾーン学校運営協議会の開催予定日とCS委員の推薦について、学校宛てに別途送付するデータにて4月当初に提出を依頼